

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞

『このままで、私たちの未来は守れるの?』

町田市立真光寺中学校 3学年

バルバレスキ バレンティーナ

「税金」と聞くと、自分にはまだそこまで関係のない話だと思っていました。しかし、学校で配られた税金についてのチラシを読んだとき、その考えは大きく変わりました。中学生の私たちに一人あたり年間約¹⁰⁶万円もの税金が使われているという事実には、私はとても驚きました。

毎日何気なく通っている学校も、普段の授業も、たくさんの税金によって支えられていることを知り、「税金は自分とは無関係ではなく、身近な存在なのだ」と初めてはつきり実感しました。そして同時に、「このままで、未来も同じように守っていけるのだろうか?」と düşün っていました。

現在の日本では、少子高齢化が急速に進んでいます。高齢者が増える一方で、働く世代はどんどん減っており、社会保障に必要な税金を支える人の数も少なくなっているのが現状です。このままでは、年金や医療、介護などに使われるお金が足りなくなり、「安心して暮らせる社会」が続かなくなるかもしれません。私はこの問

題を知って、少し怖くなりました。今は多くの税金に支えられて生活している私たちも、将来は社会を支える側になります。そのとき、同じように税金で安心できる暮らしが守られているとは限らないのです。

私は、このままではいけないと感じました。今の安心を未来にもつなげるためには、税金のことをもっと自分のこととして考える必要があると思います。「払うだけのもの」ではなく、「どう使われているのか」にも関心を持ち、無駄なく、大切に使われる仕組みをつくっていくことが大切です。そのためには、政治や社会のことにも関心を持ち、将来、税金が本当に必要な人のもとに届く社会にしていかなければと思います。私は、税金について学び、考え続けることで、少しでも社会の役に立てる人になりたいと思いました。

私たちの暮らしは、たくさんの税金に支えられています。当たり前のように受けている教育や医療も、その裏には多くの人の働きと、税金という支えがあります。だからこそ、私はこれからの社会の一員として、税金を通して誰かの暮らしを支えられる人になりたいと思います。

「このままで、私たちの未来は守れるの?」という問いに、「私たちが考え、行動すれば、守っていける」と胸を張って答えられるように、これからも社会のことに関心を持ち、学び続けていきたいです。